

2020年卒
特別調査

インターンシップに関する調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年4月発行)

売り手市場が続く中、学生との早期接触の場としての活用が進むインターンシップ。就職活動前に参加経験を持つ学生の割合も年々増加し、2020年卒モニター学生の経験率は8割を大きく超えている。

参加した学生の意識や満足度はどうだったのか。また、就職意向などに影響はあっただろうか——。参加したインターンシップの内容や感想、参加企業への就職志望度などを調査し、インターンシップの影響について分析・考察した。

【主な調査項目】

1. 参加したインターンシップの内容
2. インターンシップの情報を探し始めた時期
3. インターンシップ先を探す際に重視した点
4. インターンシップの満足状況
(参加日数別/プログラム別/社員との接点の有無別/参加後のフィードバック別)
5. インターンシップ参加前後の就職志望度の変化
6. インターンシップ参加企業への就職エントリー
7. 低学年時のインターンシップ参加

【参考】 <学生のインターンシップ参加率/企業のインターンシップ実施率>



※学生は各年とも3年生の11月調査
※企業の実施率は、3年生時に参加と仮定して作図。2020年卒は2018年度実施

調査概要

調査対象：2020年3月卒業予定の全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）のうち、1社以上のインターンシップ参加経験者 ※学年は調査当時のもの

回答者数：726人（文系男子225人、文系女子209人、理系男子198人、理系女子94人）

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2019年3月15日～22日

サンプリング：キャリアス就活2020学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

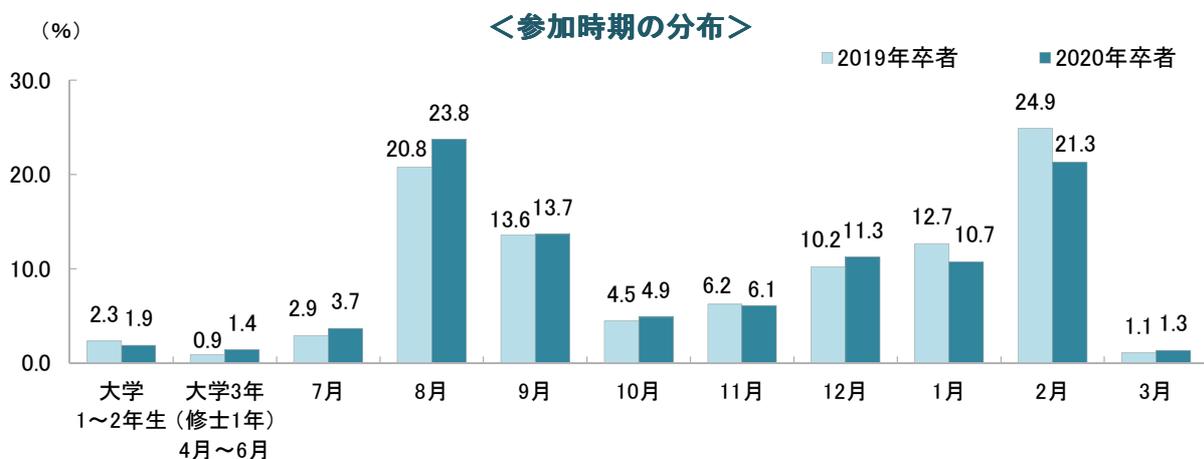
1. 参加したインターンシップの内容

最初に、学生モニターが実際に参加したインターンシップの概要を確認したい。

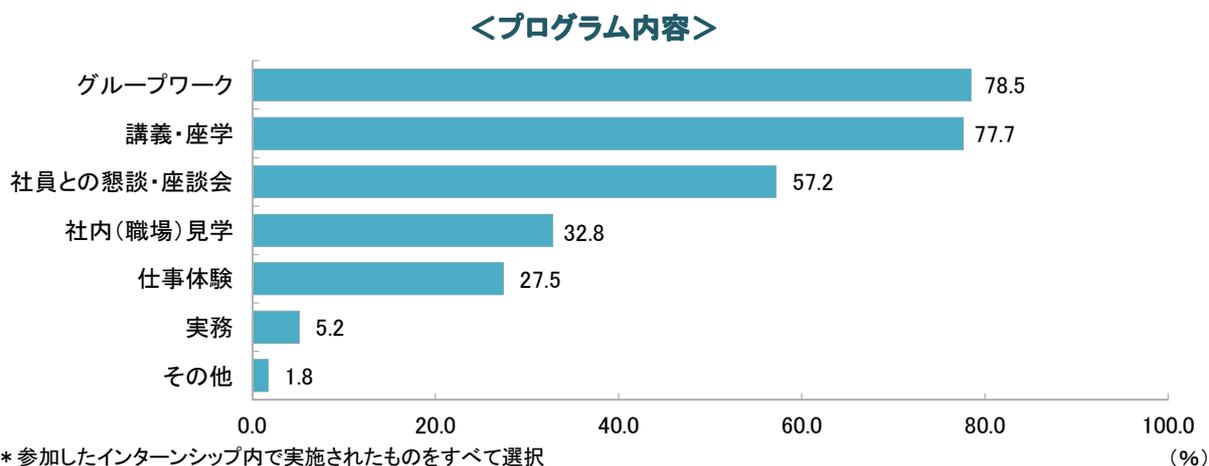
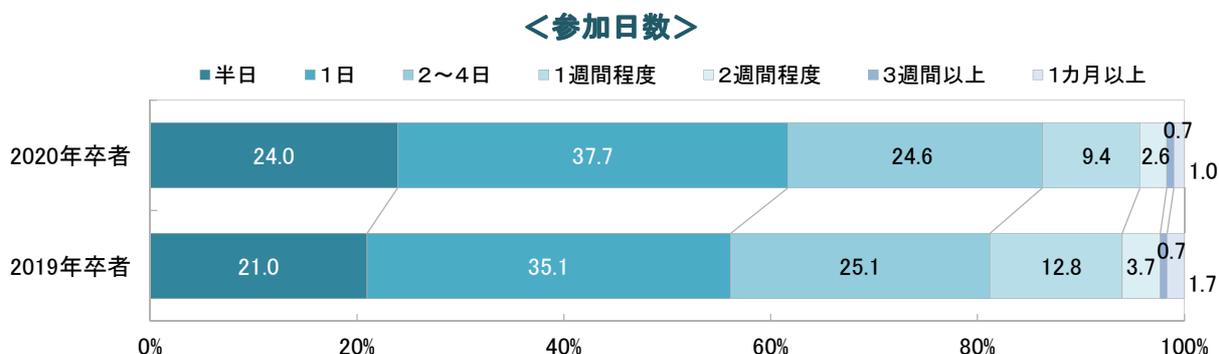
まず、参加した時期を見ると、3年生(修士1年生)の「8月」が最も多い(23.8%)。前年調査では「2月」が最多だったので、早い時期の参加が増えたことがわかる。

参加日数は「1日」が最も多く、前年よりさらに割合が増している(35.1%→37.7%)。「半日」(24.0%)を合わせると61.7%になり、1日以内の短期プログラムへの参加が6割強を占める。短期化が一層進んだ様子を読み取れる。

プログラム内容を見ると、「グループワーク」「講義・座学」が8割近くに上り(それぞれ78.5%、77.7%)、大半のインターンシップで行われていることがわかる。「仕事体験」(27.5%)や「実務」(5.2%)を伴うものはかなり限られる。

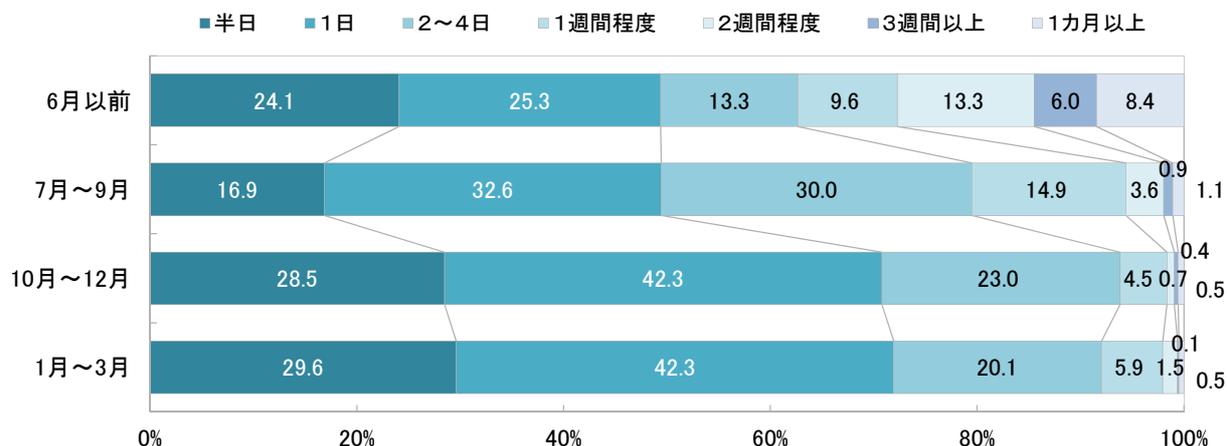


* 合計が100%になるように再集計し、占める割合を算出。以下同じ



次に「参加時期」と「参加日数」の関係を調べてみた。9月までは2日以上複数の日程のプログラムへの参加が過半数を占めるが、10月以降は「半日」や「1日」の割合が急増。1日以内の短期プログラムが7割以上を占める。先に見たように、短期プログラムへの参加は全体の6割強に上るが、時期が遅いほど参加日数が短くなる傾向が見て取れる。

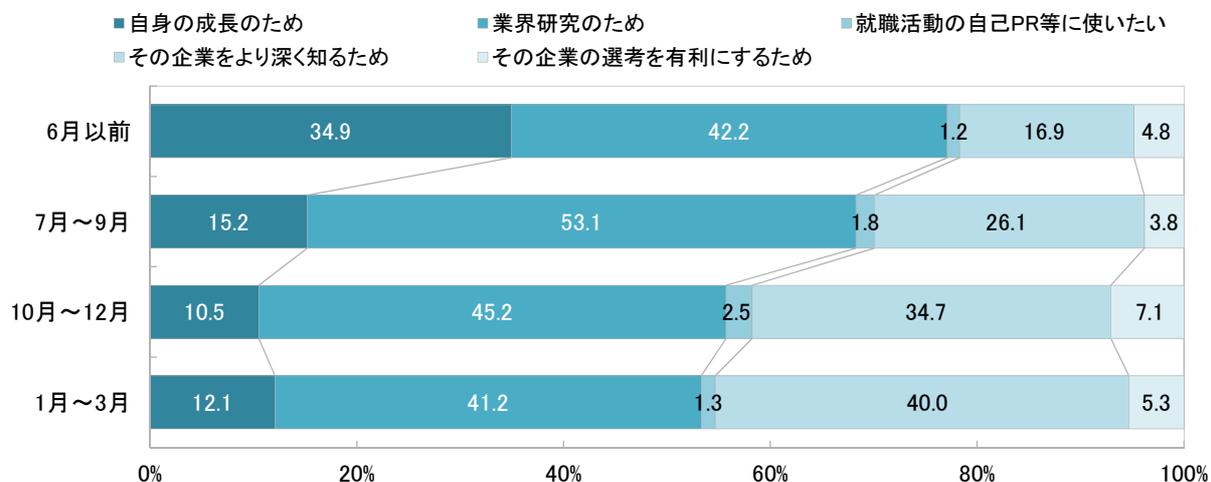
<参加日数×参加時期>



「参加目的」についても参加時期別に見てみる。6月以前は「自身の成長のため」が3割を超えていたが(34.9%)、7月以降は1割台に減少。代わりに「業界研究のため」や「その企業をより深く知るため」の割合が増える。特に7月～9月は「業界研究のため」が半数を超え(53.1%)、夏のインターンシップは業界研究の場として捉える学生が多いことが読み取れる。

また、「その企業をより深く知るため」の割合が増していくことから、業界から企業(個社)へと徐々に重心が移っていく様子が見て取れる。ただ、いずれの時期も最も多いのは「業界研究のため」の参加であり、インターンシップが業界研究の場として捉えられていることがうかがえる。

<参加目的×参加時期>

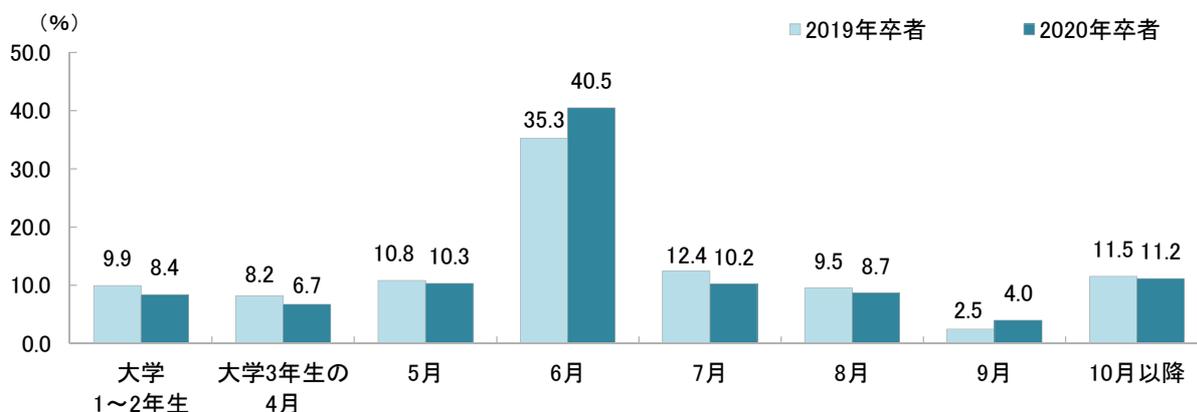


2. インターンシップの情報を探し始めた時期

インターンシップに関する情報(募集企業)を探し始めた時期は「6月」が最も多い。全体の4割を超え、前年よりも集中度が増している(35.3%→40.5%)。また、参加したインターンシップを知ったきっかけは「就職情報サイト」が最多で、過半数を占める(56.4%)。

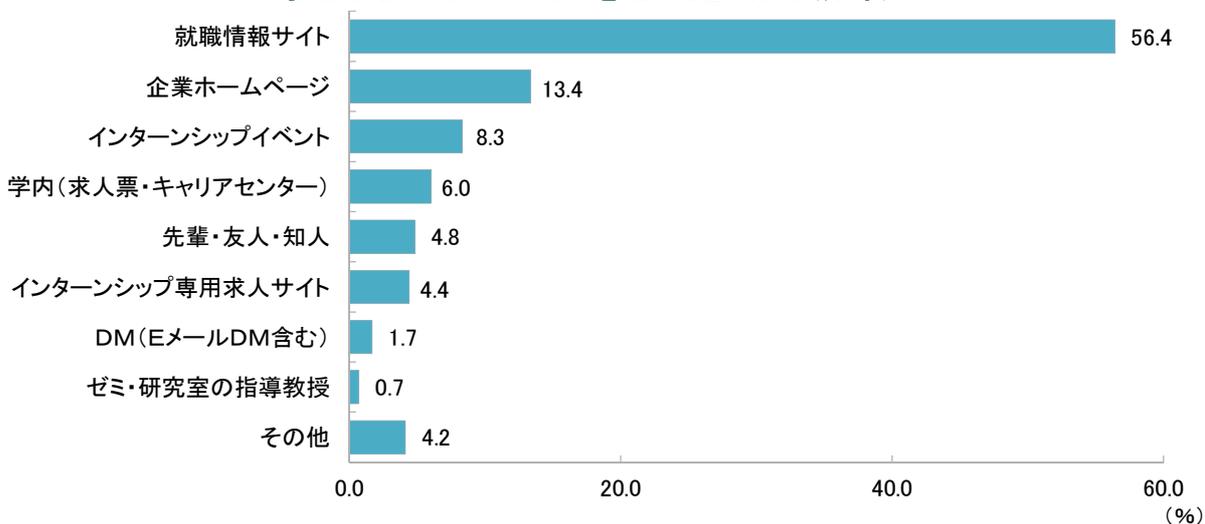
就職情報サイトは6月からインターンシップ情報を公開するケースが多かったが、2ページで見たように、インターンシップへの参加は8~9月を合わせた夏休み時期が最初のピークだったことから(合計37.5%)、6月に入ったら就職情報サイトで募集企業を探し始め、夏休みの参加を目指すという流れができていたと想像される。

＜インターンシップ募集企業を探し始めた時期＞



* 修士の学生は、「修士1年生」として回答

＜参加したインターンシップを知ったきっかけ(分布)＞



■インターンシップを探す際(申し込む際)に困ったこと

○事前選考の有無がエントリーしてみないとわからないことも多かったので、エントリー前でもわかると良いと思った。 <文系女子>

○選考結果が出る日付がわからず、予定が立てにくかったこと。 <文系男子>

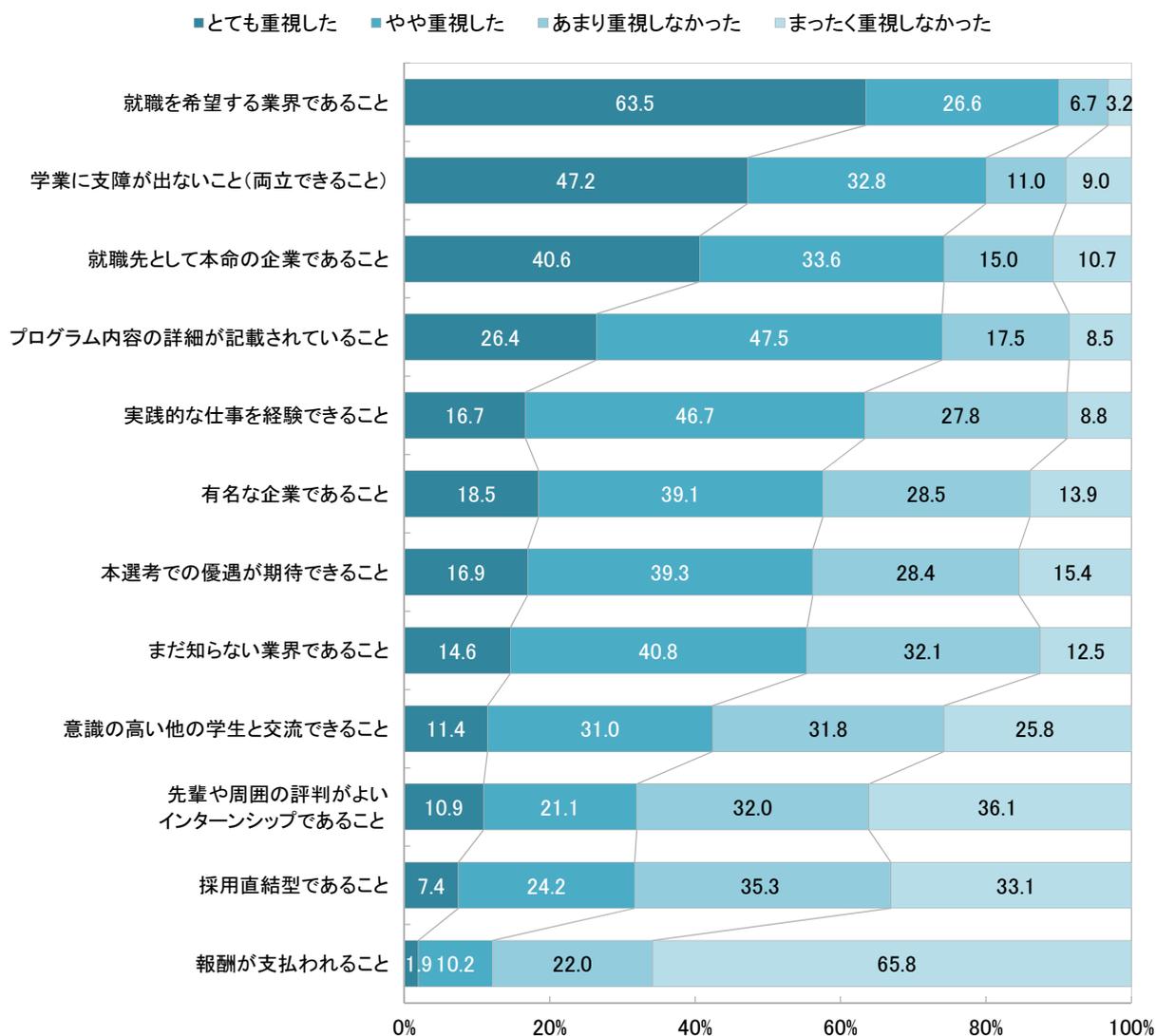
○インターンシップを考え始めた6月は、企業を調べるだけでかなり時間がかかり、締め切りに間に合わないことがあったので、4月などもっと早い時期から企業について調べればよかった。 <理系男子>

3. インターンシップ先を探す際に重視した点

インターンシップ先を探す際の条件として十数項目を示し、それぞれ重視した度合いを尋ねた。

「重視した」と回答した人(「とても重視した」「やや重視した」の合計)が最も多かったのは「就職を希望する業界であること」で、9割超に上った(計90.1%)。「とても重視した」に限って見ても6割を超える(63.5%)。3番目に多い「就職先として本命であること」も「重視した」の合計が7割を超えており(計74.2%)、志望業界や企業をある程度定めた上で、インターンシップに参加する学生が多いことがわかる。また、「プログラム内容の詳細が記載されていること」がほぼ同率で4位に来ており(計73.9%)、内容が曖昧なインターンシップを敬遠する学生が少なくないことがわかる。

<インターンシップ先を探す際(申し込む際)に重視したこと>



■インターンシップを探す際の条件

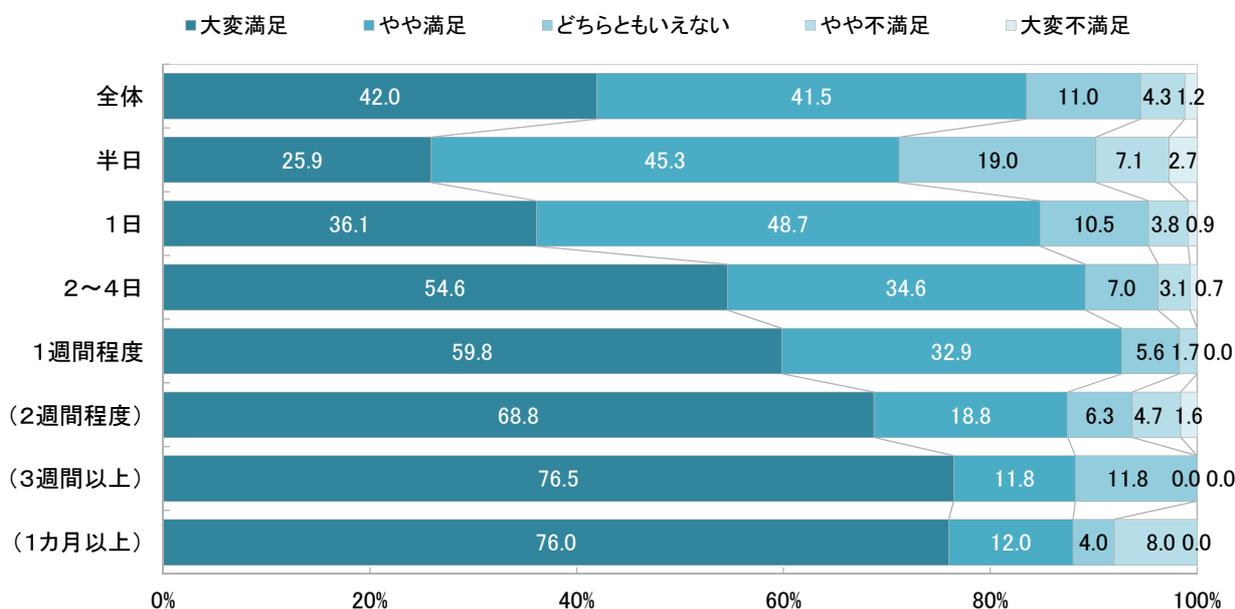
- グループワークにとどまらず、職場体験、営業同行、工場見学などが内容に含まれているか。 <文系男子>
- 先輩社員との交流会・座談会があるインターンは重視しました。 <文系女子>
- 参加する時間が無駄にならないように、自分の知識として何か得られるものがあるかを重視した。 <理系男子>
- どのような内容であるのか詳細に説明されている企業は申し込みやすかった。 <文系男子>

4. インターンシップの満足状況

インターンシップに参加した満足度を尋ねたところ、「大変満足」が42.0%と4割強。「やや満足」(41.5%)とあわせると8割を超え(計83.5%)、総じて満足度は高い。ただし、実施内容や時期により、満足度に違いが見られる。「参加日数別」「プログラム別」「社員との接点の有無別」「参加後のフィードバック別」の4つの指標でデータを紹介したい。

まず、参加日数別に見ると、「大変満足」「やや満足」を合わせた満足度が最も高いのは、「1週間程度」で9割を超える(計92.7%)。一方、「半日」では約7割(計71.2%)にとどまる。「大変満足」に限ると、「1週間程度」では約6割に上るのに対し(59.8%)、「半日」では25.9%。短期プログラムの開催は年々増加しているが、参加学生の満足度は、長期のものほど高い傾向が顕著に表れている。

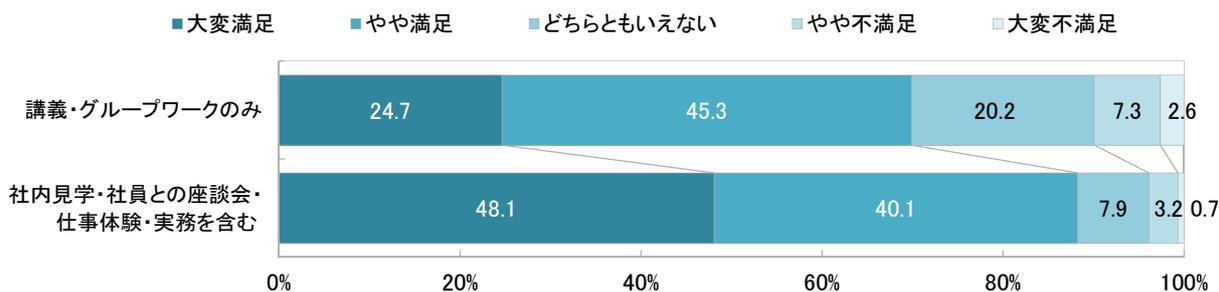
<満足度(参加日数別)>



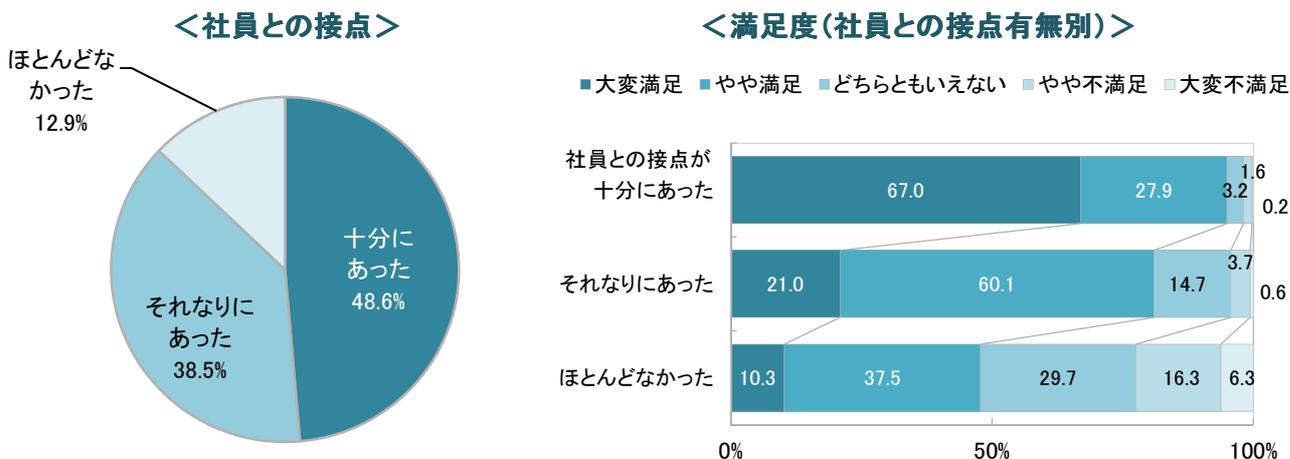
*2週間以上のものは、該当数が少ないので参考値

次に、参加したプログラム別に見てみたい。「講義・座学」「グループワーク」の組み合わせで実施されるインターンシップが主流だが(2ページ)、「講義・グループワークのみ(いずれか、または両方)」の場合と、それ以外の内容を含む場合に分けて、満足度を比較した。「講義・グループワークのみ」では「大変満足」が24.7%なのに対し、「社内見学・社員との座談会・仕事体験・実務を含む」ものでは約5割(48.1%)と2倍近い。実際に職場の雰囲気を感じたり、実態に近い情報を得たりすることで、企業理解も進み、満足度が上がるのだろう。

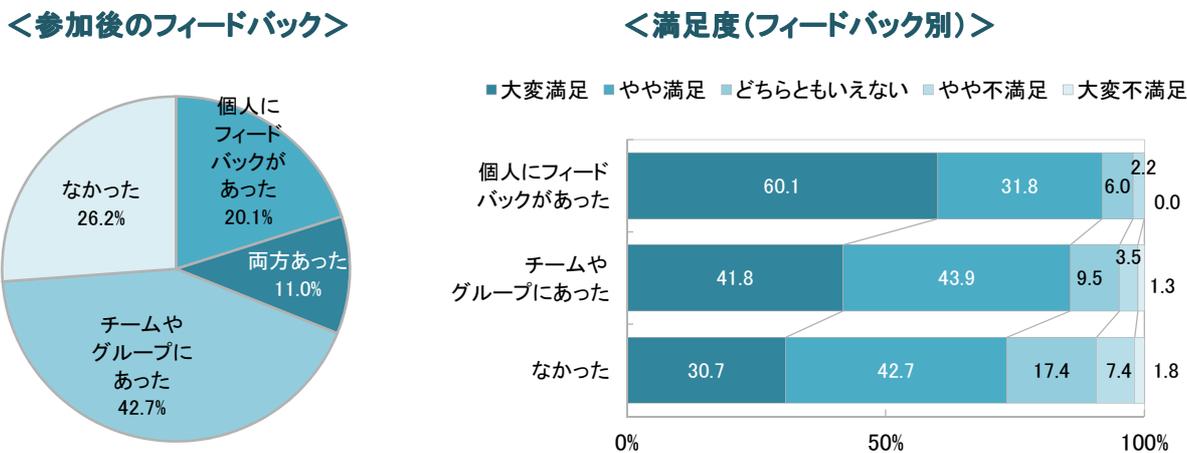
<満足度(プログラム別)>



インターンシップ期間中に、参加企業の社員との接点が「十分にあった」ものは約半数 (48.6%)。「それなりにあった」が 38.5%で、多くのインターンシップで社員と接する機会を設けていることがわかる。これを、プログラムへの満足度と掛け合わせると、社員との接点が「十分にあった」ものにおいては「大変満足」が7割近くに上り (67.0%)、「やや満足」(27.9%) と合わせて9割を超える (計 94.9%)。「それなりにあった」ものでも、「満足」の合計は約8割 (計 81.1%) と高いものの、「大変満足」に限ると約2割 (21.0%)。「十分にあった」ものと比べると3分の1程度にとどまる。さらに、社員との接点が「ほとんどなかった」ものにおいて、「大変満足」はわずか1割 (10.3%)。インターンシップ中に、どの程度社員と接点をもつことができたかが、満足度に大きく影響していることがわかる。



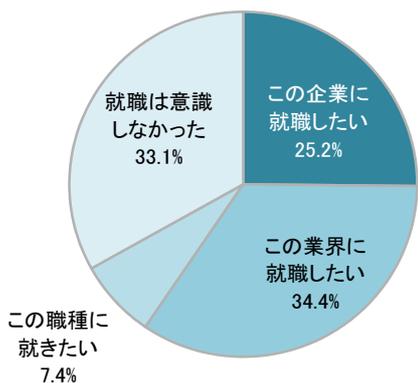
同様に、「参加後のフィードバック別」に満足度を見てみる。「個人にフィードバックがあった」ものの満足度が最も高く、「大変満足」が約6割 (60.1%)、「やや満足」と合わせると9割を超える (計 91.9%)。次いで「チームやグループにあった」もので、「大変満足」は約4割 (41.8%)。フィードバックが「なかった」ものでは「大変満足」は約3割にとどまった (30.7%)。フィードバック (評価やアドバイス) を受けたことで、自身の成長につながったことに加え、企業側が参加学生と真剣に向き合ってくれたこと、また、指摘内容から社員の考え方を理解できたことなどが、満足度の上昇につながったようだ。



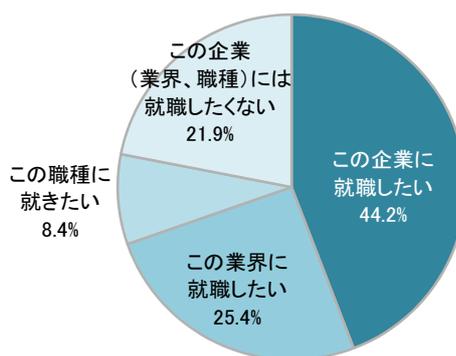
5. インターンシップ参加前後の就職志望度の変化

インターンシップの参加前後で、その企業への就職志望度がどう変化したかを調べてみた。インターンシップ参加前は「この企業に就職したい」は4分の1程度だったが(25.2%)、参加後は44.2%へと、20ポイント近く増えている。実際に接点を持つことで、就職先として意識したり、志望する度合いが高まったりしたと考えられる。

＜インターンシップ前の就職志望度＞



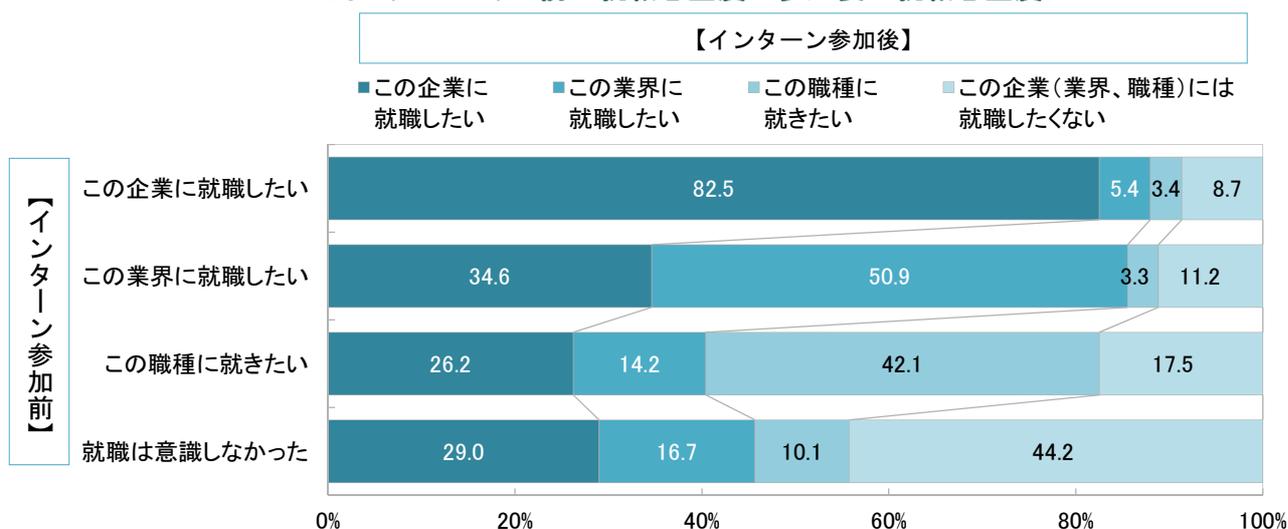
＜インターンシップ後の就職志望度＞



さらに、インターンシップ参加前の就職志望度ごとに、参加後の志望度を見てみる。参加前に「この企業に就職したい」と回答したものでは、参加後も「この企業に就職したい」と回答する割合が82.5%と極めて高い。「この企業(業界、職種)には就職したくない」に転じた割合はわずか8.7%だった。

一方、「就職は意識しなかった」と回答したもののうち、参加後に「この企業に就職したい」に変化したのは約3割(29.0%)。「この業界に就職したい」は16.7%。インターンシップに参加することで志望企業や志望業界となった割合は45.7%に上った。

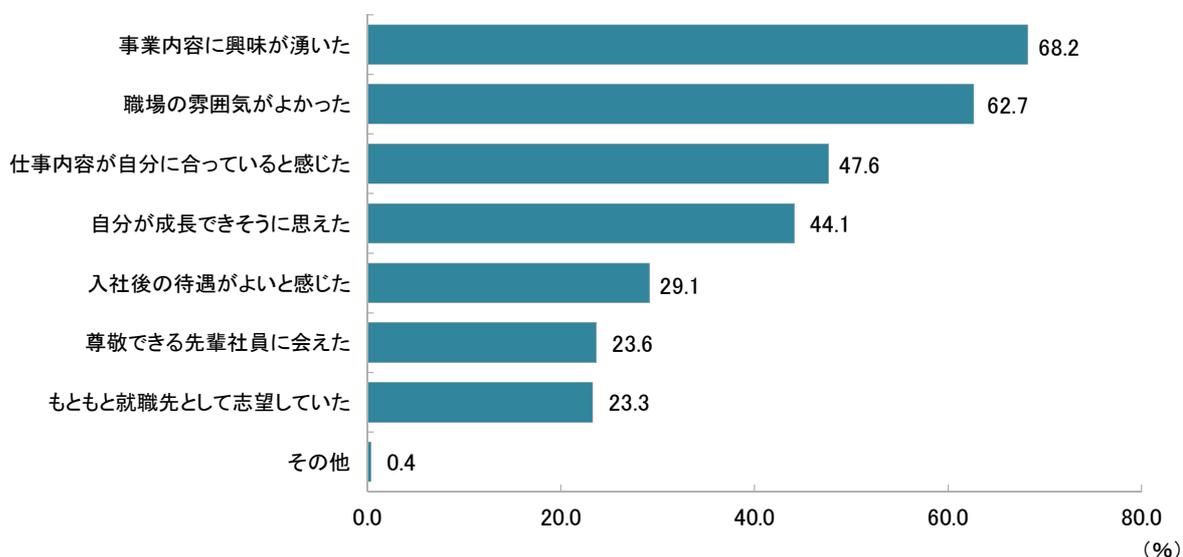
＜インターンシップ前の就職志望度×参加後の就職志望度＞



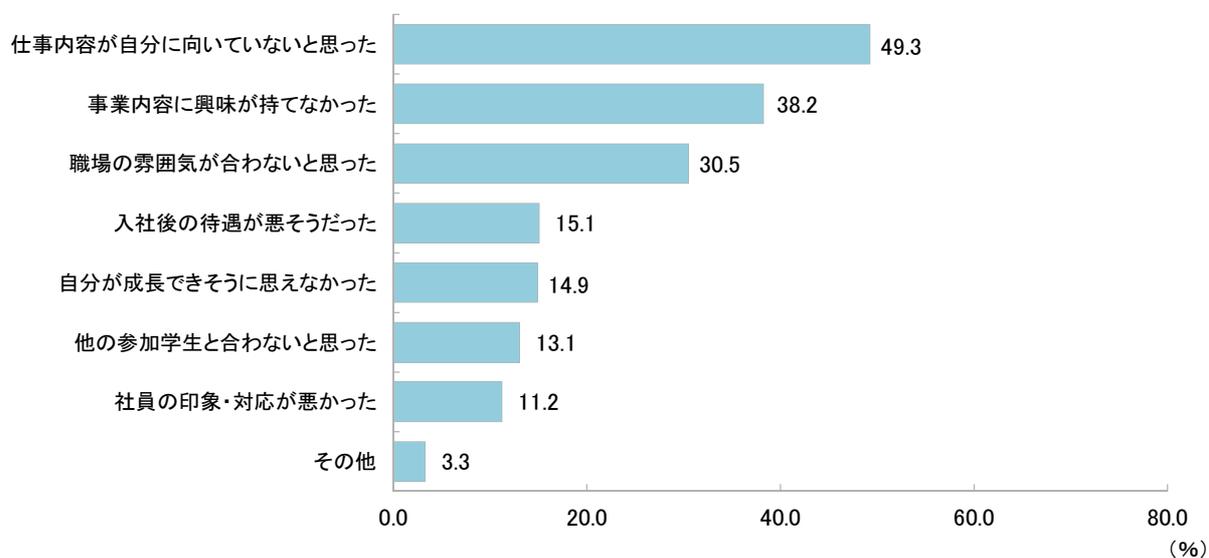
インターンシップ後にその企業に就職したいと感じた理由を尋ねたところ、最も多かったのは「事業内容に興味があった」(68.2%)で、続く「職場の雰囲気がよかった」(62.7%)も6割台で、多くの学生を選んだ。「仕事内容が自分に合っていると感じた」は半数程度にとどまり(47.6%)、仕事内容よりも事業内容や雰囲気重視という結果は、就業体験を伴う実践的なプログラムを経験する学生が少ないことに起因していると思われる。

一方で、その企業に就職したくない理由を見ると、「仕事内容が自分に向いていないと思った」が最も多く、半数近い(49.3%)。「事業内容に興味を持てなかった」(38.2%)、「職場の雰囲気が合わなかったと思った」(30.5%)も比較的高く、様々な角度から、自分に合う企業であるかを見極めていることがうかがえる。企業側は、より実務に即したプログラムを提供することで、ミスマッチの少ない、質の高い採用母集団形成につなげることが期待できるだろう。

<その企業に就職したい理由>



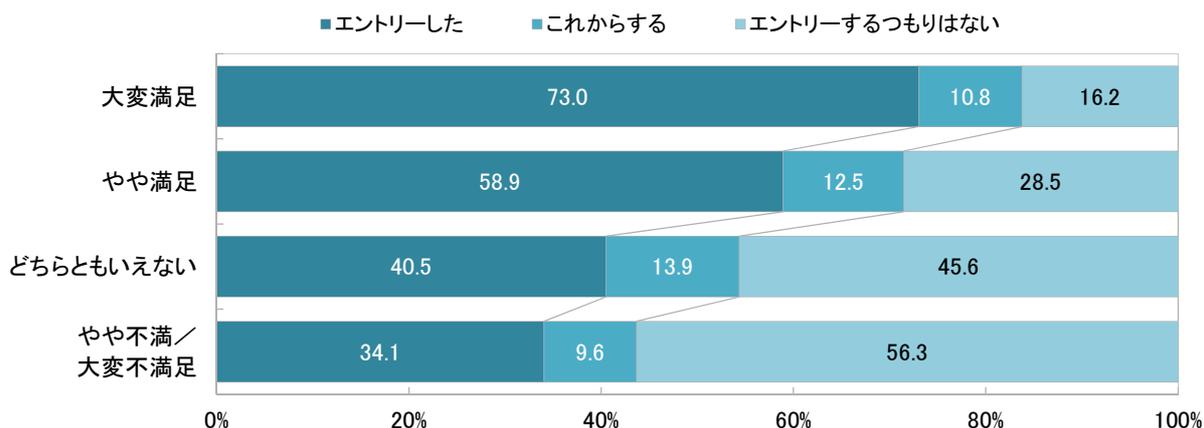
<その企業に就職したくない理由>



6. インターンシップ参加企業への就職エントリー

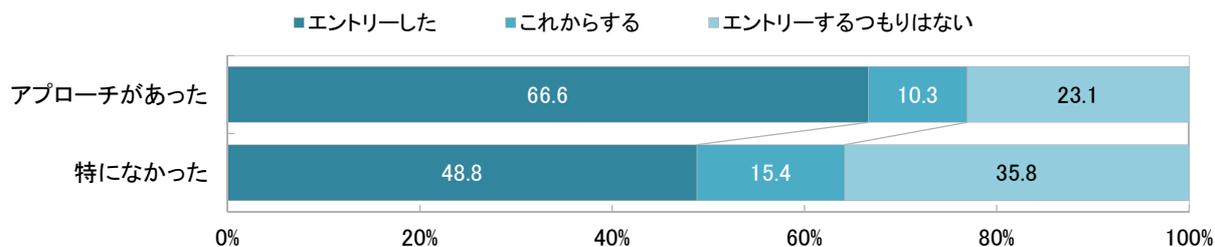
参加したインターンシップの「満足度」と「就職エントリーの有無」との関係性を調べた。満足度が高いインターンシップほど、就職活動が始まってからその企業に「エントリーした」という割合が高く、「大変満足」では「エントリーした」が7割を超える(73.0%)。逆に満足度の低いもの(やや不満足/大変不満足)では「エントリーするつもりはない」が半数を超えている(56.3%)。インターンシップの満足度の高さは、志望度だけでなく、実際の就職エントリーにもつながっている。

＜就職エントリーの有無×満足度＞

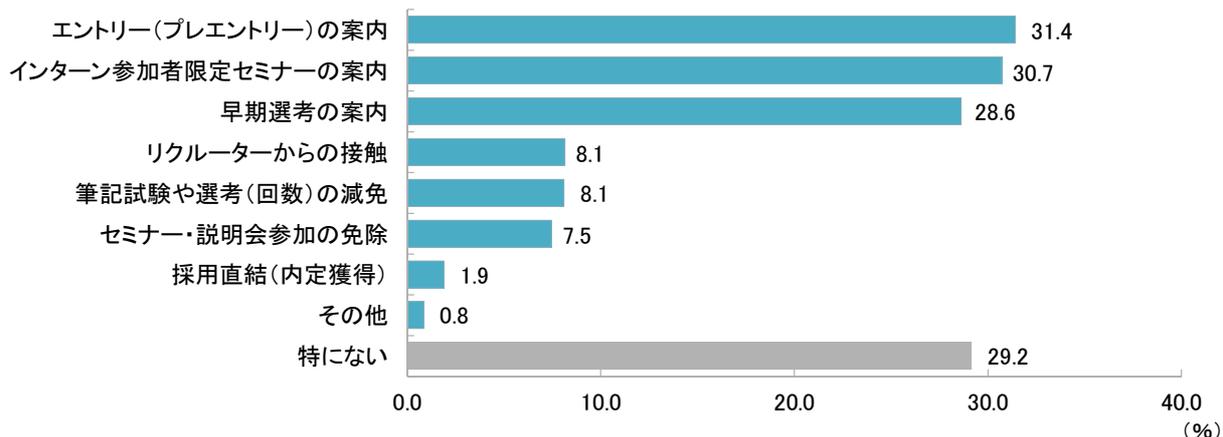


また、「就職エントリーの有無」を「インターンシップ参加後のアプローチ・優遇の有無」別にも見てみた。参加企業から何らかの「アプローチがあった」場合、その企業に「エントリーした」は7割近くに上り(66.6%)、「特になかった」場合(48.8%)を大きく上回った(17.8ポイント差)。インターンシップそのものの満足度だけでなく、参加後のフォローやアプローチの有無も、エントリーに大きく影響を与えていることがわかる。

＜就職エントリーの有無×参加後のアプローチ・優遇の有無＞



＜参加後のアプローチや優遇＞

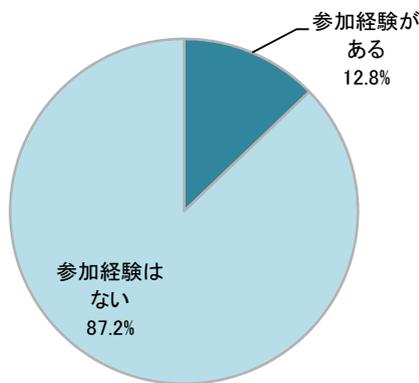


7. 低学年時のインターンシップ参加

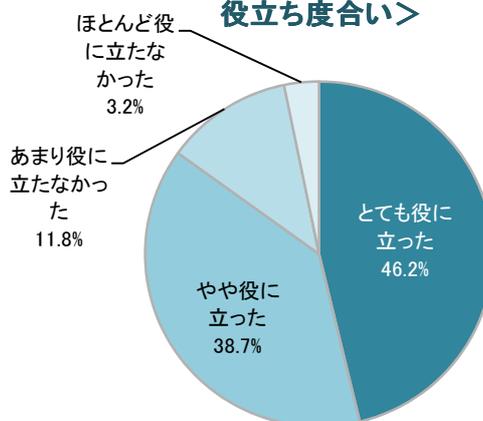
最後に、低学年（大学1～2年次）のインターンシップ参加についても調査したところ、「参加経験がある」と回答したのは全体の1割程度だった（12.8%）。参加経験者に、そのインターンシップが役に立ったかどうかを尋ねると、「とても役に立った」が4割を超え（46.2%）、「やや役に立った」（38.7%）を合わせると8割以上（計84.9%）が「役に立った」と振り返る。

また、参加経験の有無にかかわらず全員に、低学年時のインターンシップ参加について意見を尋ねてみた。「ぜひ参加すべき」（23.4%）、「できれば参加したほうがよい」（48.3%）を合わせて7割超（計71.7%）が参加に対して肯定的な考えをもつことがわかった。実際に低学年時に参加経験をもつ層に限ると半数近く（48.4%）が「ぜひ参加すべき」と回答した。

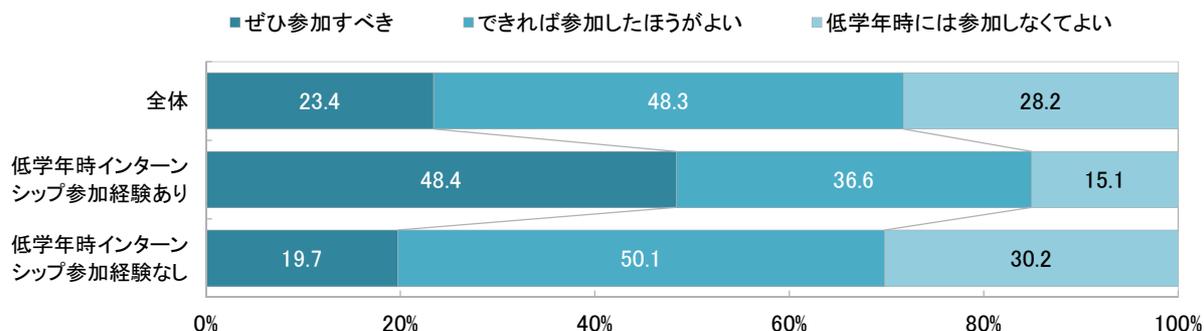
＜低学年(大学1～2年生)時の
インターンシップ参加経験＞



＜低学年時のインターンシップの
役立ち度合い＞



＜低学年時のインターンシップ参加についての考え＞



■低学年時のインターンシップ参加への意見

- インターンシップを通じて早めに就職を意識することで、大学での勉強も有意義なものになる。 <文系男子>
- どんな仕事があるかを予め知っているだけで、今後の学生生活の過ごし方も変わってくると思う。 <理系男子>
- 3年生だと様々なインターンシップに参加している時間もないし、皆が申し込むため倍率も高い。 <文系女子>
- 学業に支障が出ない程度に参加すると思う。外資系企業はインターン参加者からしか採らないところもあるので早めにマークしておくべき。 <理系女子>
- 実際に働く体験ができるという点で、長期インターンシップであれば時間がある低学年時に参加するべきだと思いますが、1dayなど短期のものは参加する必要はないと思います。 <文系男子>
- 部活やサークルなど打ち込めるものがある人は、そちらに打ち込んだ方がよい。低学年時にどれだけ多くの経験を積めるかで、就活における自己PRに厚みがでてくる。 <文系男子>

■参加したインターンシップの良かった点

- いろいろなキャリアの社員と話ことができ、業界やその企業についてより理解を深めることができた。<半日/7月>
- 比較的短い時間で、基礎的なことから最新のことまでを知ることができた。また、グループワークのフィードバックで厳しいことも含めて現実的な意見を言ってもらってよかった。<1日/7月>
- 現場配属型で、実際の社員と多く交流できる点は良かったです。<1週間程度/7月>
- まったく知らない業界・職種だったが、よく理解することができたとし、ワークの密度も濃くフィードバックもあり、大きく成長できたと感じた点。<2~4日/8月>
- B to B の営業を体験できたのはとてもよかった。また、懇親会などがあったため、社員の方の本音を知ることができたのもよかった。<2~4日/8月>
- 毎日チーム内でフィードバックをし合う時間があり、それが日々のモチベーションになった。自分がどういう人間か客観的に知れて自己分析に役立った。<1週間程度/8月>
- 担当の社員についてもらい、手厚く指導をしてもらいつつ、自分なりに研究を進めることができた。実際の仕事に近いかたちで体験することができたと思う。<2週間程度/9月>
- 内定者の話も聞くことができ、会社のことだけでなく就職活動の参考にもなった。<1日/11月>
- 会社の中身をほとんどすべて見せてもらったので、自分に合いそうかどうかの判断になった。<1日/12月>
- 質問があったら、社員の方がすぐに駆けつけてくれて、正解に導いてくれた。みなさん接しやすかった。<1日/1月>
- 会社にデスクを用意してもらうことで、会社の雰囲気を生で感じるすることができた。<2週間程度/1月>
- 事前選考があり、選ばれたのが嬉しかった。インターンシップ後に特別枠で本選考に進んだ。<2~4日/1月>
- 人事の方が積極的にコミュニケーションをとってくださり、非常にいい雰囲気の中、インターンが進められたこと。<2~4日/1月>
- 企業を深く知ることができたことと、オフィスの雰囲気を見ることができたことが良かった。<1日/2月>

■参加したインターンシップで不満に思った点

- まだグループワークに不馴れな学生が多い中で、学生に対するフォローがほとんどなかった。<1日/7月>
- 具体的な仕事内容についての説明がなく、企業研究としてはやや物足りなく感じた。<半日/8月>
- メンター社員の態度が、基本的に否定から入ることが多く、話していてあまり心地よくなかった。<2~4日/8月>
- 知識がなくても大丈夫とのことだったが、実際はあったほうがとても有利だった。<2~4日/8月>
- 昼食や服装に関する事前案内がなかったこと。<1週間程度/8月>
- インターン生の人数が非常に多く、企業の雰囲気を体感することはできなかった。<1日/9月>
- 良いことしか言っていないという印象を受けた。<1日/9月>
- 1日目の帰りに、翌日の朝までの課題を出されて、一晩でやらないといけないのが嫌だった。<2~4日/9月>
- 営業同行と聞いていたが座学がメインだったこと。<1週間程度/9月>
- インターンシップというより説明会で、ただ一方的に話を聞くだけだった。<1日/10月>
- 社員との接点はほとんどなかった。また、半日のワークということでもかなりタイトだった。<半日/12月>
- 合同企業説明会と同様の説明内容で、インターンシップ限定の情報は少なかった。<1日/12月>
- 実はインターン参加者に、早期選考ルートがあるのだと参加してから知った。<1日/12月>
- グループワークの時間が長い割に、会社を知る上で必要性を感じられない内容だった。<1日/1月>
- 知りたい職種のことが、いまいち分からなかった。<半日/1月>
- 社員がものすごく高圧的な態度だった。<2~4日/1月>
- 事業内容に関係ないワークだったので、2月という就活直前の時期にやる内容ではないと思った。<半日/2月>